

## 好きこそ

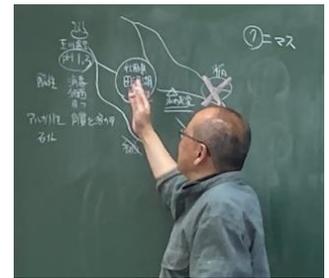
“好きこそ ものの上手なれ”

「好きなことはおのずと熱中できるから上達が早いものだ」という意味です。好きなことは時を忘れて、続けてしまうこともあります。

8日の1組の道徳は「熱球の軌跡」という高校野球を題材にした内容です。所属する部員が100名以上の強豪校の話と関連付けながら授業を進めていました。全国高校野球甲子園大会では、ベンチ入りが20名。それ以外はスタンドで応援ということになります。好きだから始めた野球ですが、上手になった姿を、80名は大会で表現することなく引退していくのです。登場人物は20名に滑り込んだものの、スタンドを仕切ることができる人間がいなく、監督から、スタンドで応援に回れってこないかと懇願される内容。背番号をつけてグラウンドの土の上に立ちたかたであろう気持ちを抑え、チームのためにスタンドで応援を盛り上げる役に徹するのです。“好きだから”だけで「でも感激は一緒です」という言葉を残せたのでしょうか。彼の心情に寄り添いながら、考えていきました。



3年生の理科はpH、すなわち、酸性アルカリ性の授業です。具体例として、強酸性の秋田の“玉川温泉”について説明をしていました。なんとpHは1.3 驚く数字です。湧き出た温泉水は玉川を作りだします。そこから興味深い展開へ。「灌漑と電力供給のために、田沢湖から流れ出る川にダムを建設。さらなる水量を確保するため、玉川から田沢湖に水を引いた。中性であった田沢湖は水質が変化し、酸性が強まり、一年余りで魚は住めなくなった。田沢湖にしか住まない固有種“クニマス”は絶滅していった。」質問形式で解説が進んでいきました。「しかし、湖の酸性化で魚が減びることを予測し、クニマスの卵を確保し、他の湖に運んだ人がいた。」ますます興味を引きます。理科が好きだからでしょうか。結果は・・・絶滅。



ところが70年の時を経て、2010年山梨県西湖で発見されるのです。この発見に一役を担ったのが、タレントの“さかなクン”でした。鑑定は、京都大学の中坊教授に依頼したのですが、当初は西湖の漁協から、さかなクンに届きました。手にとったさかなクンが、その黒い個体が普通ではないことに気づき、中坊教授に届けられたのです。さかなクンの知識があってこそその世紀の大発見です。さかなクンは独学で身に付けた深い知識をもち、東京海洋大学の客員教授を務めています。“好きこそものの上手なれ”を極めたお人です。



さかなクン HP より

20年ほど前、環境学習で招聘した自然保護の講師の先生に、生徒が質問しました。「先生は、どうして日本古来種を見つけたり、植物の変化について分かったりできたのですか？」先生の答えは「植物が好きだから、毎日見続けた。毎日見ていれば変化が分かってくる」正に、好きこそものの上手なれなのです。他にも「好きではないことは続けられないと思うのですが」先生は「嫌いなことでも続けることで好きになるということもある。続けることは好きであることよりも大切で、そういう人が新たな発見をすることもある。」

続けることが「好きを超える」とおっしゃっていました。なぜなら好きで続けている人より一歩引いて観ているから視野が広いことがあるのだと。皆さん!嫌いなことでも続けていくことが大事です。

続けることで 好きを超そう!!